

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日 平成 28年 11月 22日			
所属学部・研究科	教育学部/研究科 四年次 (留学開始時点)			
留学先大学	ニューイングランド大学 (国名: オーストラリア )			
所属学部・学科等名				
在籍身分	学士			
留学期間	平成 28年 2月 22日～平成 28年 10月 10日			
<b>1. 渡航について</b>				
ビザについて	ビザの種類: 学生ビザ			
	ビザ申請先: オーストラリア大使館			
	取得方法, 提出書類: オーストラリア大使館ホームページからオンライン申請、全て英語で書かれているが、日本語のガイドを利用すると確実。			
	手続きに要した日数: 30分			
その他必要な事前手続き	特になし			
出国年月日	平成 28年 2月 10日			
経路	関空→クアラルンプール→シドニー			
現地での出迎え	有 広大で言う国際交流グループの方による車送迎			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	留学生向けオリエンテーションが一日, 新入生向けオリエンテーションが一週間。履修登録の仕方からレポートの書き方まで実践的な内容。			
帰国年月日	平成 28年 10月 17日			
経路	シドニー→成田			
<b>2. 留学経費について</b>				
所要経費	総額	1,500,000	円	
	内訳	渡航費	150,000	円
		保険料	100,000	円
		教科書代(学費)	20,000	円
		宿舍費	800,000	円
		食費	100,000	円
		その他 ( 車購入費)	200,000	円
( 車維持費)	100,000	円		
( 費)		円		
<b>3. 授業について</b>				
2016年1学期	2月 22日	～	6月 3日	



留学先での健康管理, 衛生面について特に注意すべきこと	毒蜘蛛	
(3) 危険を感じた地域, 状況		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
車は必須ではないが, 公共交通機関の利便性がよくない為, あると便利。買う買わないは別にしても運転できるように国際免許の取得を勧める。		
<b>5. 帰国後の進路について</b>		
卒業予定年月	平成 30年 3月	(当初の卒業予定年月 平成 28年 3月)
卒業が遅れる見込みの場合, その理由	<input checked="" type="checkbox"/> 年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他 (具体的に )	
現在の状況および今後の予定・進路等	一般就職	
就職活動や留学前の単位取得, 教育実習等についての工夫	教育実習期間と被らないオセアニアへの留学をした。	
<b>6. 留学準備, 留学中に役立った書籍, ウェブサイト等</b>		
書籍, サイト名	詳細 (出版社, URL 等)	コメント
<b>7. 自由記述 (後輩へのアドバイス等)</b>		
日本人が比較的少ない環境なので, 英語漬けの日々を送りたい人にはいいと思う。		

## 学習の概要に関するレポート

私は広島大学での専攻が教育ですが、留学を決めた時点で教員以外の道も選択肢に入れながら将来を考えていたので、派遣先大学では今まで見てこなかった専門外の分野を学ぼうと決めていました。その結果、教育以外で特に興味があった国際政治、国際経済、中国語、言語学の授業を履修しました。授業は基本的に2時間の講義と1時間のチュートリアルの計3時間で構成されており、講義で扱った内容をチュートリアルで復習しながら発展させるというスタイルでした。最大履修登録授業数は4つまでと決められており、少数の授業を短期間で集中的に学ぶことが特徴の一つだと思います。

私自身の学習についてですが、それは想像を絶するほどの過酷なものでした。まず、学生に求める学習量の多さに驚きました。日々の授業の予習、復習に加え、チュートリアルでは積極的な発言を求められ、そのために多大な準備を迫られました。自分の専門分野ではない分野を学んだため、専門知識の欠如は当然ありましたが、それを差し引いてもなお、やるべきことは膨大にありました。とりわけ時間を費やしたのが教科書や関連論文等の読み込みです。中国語を除く各授業で毎週30ページから100ページほどの英文を読まなければならない、これには毎日の学習時間の大半を充てざるを得ませんでした。授業によっては読まないという選択肢がなかったわけではありませんでしたが、これをするのとならないのでは授業の理解度や、チュートリアルへの関与の度合いが全く違ってくるので、何とか全て読み切るように心がけていました。また、日々の学習とは別に、週に一度、レポートやクイズなどの形で学生が授業についてきているか確認する教授が多かったです。このレポートやクイズにより、その週に学んだ内容を週末に整理できるので、学術面から見れば優れたものだと思いますが、週末だからゆっくりしようという感じにはとてもなれませんでした。学期末には日本と同様レポートか試験の形で最終評価がありましたが、ここでもその厳しさを知ることとなりました。レポートにせよ試験にせよ、出題内容は授業で学んできた内容そのものを問うのではなく、そこで学んだ知識を駆使しながら回答を導きださなければならないというものが多かったです。授業でやったことさえ覚えてれば大丈夫という甘い考えでは単位を取ることは難しいです。そのため、当然学期末は多忙を極め、おそらく人生で最も勉強したのではないかと思うほどです。勉強時間は誰にも負けないと思うほど勉強した一年間でした。年度末には成績優秀者の表彰も受けることができ、その学習結果にはとても満足しています。

## 生活の概要に関するレポート

留学先の町アーミデールはどこか西条と似ている雰囲気がありました。アーミデールは西条と同様、大学を中心にしてきた小さな町です。気候は、夏は暑く冬は寒いという極端なところで、冬には雪が降ることも珍しくありません。西条で暮らしてきた身としては自然と親近感の湧くような町でした。

私のアーミデールでの生活の大半は大学の寮での生活でした。留学先大学には八つの寮がありますが、日本の寮とは全く異なります。システム上の違いとして、それぞれの寮が独立して経営を行うことにあり、その中には私立の寮もあります。その為、各寮にはそれぞれの独自色があり、施設の内容、食事プランなどの違いに加え、都市部の学生が多い寮、反対に農村部の学生が多い寮、留学生の多い寮、キリスト教徒の為の寮などなど、寮が違うだけで生活は全く異なるものになります。ハリーポッターの世界をイメージしてもらえると分かりやすいかもしれません。スリザリンとグリフィンドールくらい違います。そんな中で私が選んだのはアールページカレッジという八つの寮の中でも最も古い寮の一つです。寮を決める段階で、現地学生の生活に近い生活をしたという思いがあり、アールページカレッジこそが私の希望に沿うものだと思います。

実際の寮生活は期待通りの部分とそうでない部分の両方がありました。現地学生と同じ暮らしをするためには、留学生の少ない寮が良いと考え、この寮に入居しましたが、留学生は300人中私一人だけで、望んでいた環境とは言え、その暮らしに適応することは簡単なことではありませんでした。それでも私を受け入れてくれた現地学生のおかげで、数か月たつころにはその寮は自分の本当の家のように、寮に住む人は自分の家族のように感じるようにまでなりました。それは彼らが私を留学生として特別扱いすることなく、他の現地学生と同じように寮の仲間として接してくれたからです。

先述した通り寮での生活が私のアーミデールでの生活の大半ではありましたが、寮以外のアーミデールコミュニティにも参加しました。例えば週に一度、地域のスポーツクラブの方とランニングを行いました。楽しいことも多くある共同生活ですが、人間関係などがうまくいかず負担に思うことも少なくありませんでした。そんな時に寮から少し離れてスポーツに汗を流すことはとてもいい気分転換となりました。

ここからは余談になるかもしれませんが、オーストラリアでは車は必需品です。もちろん一年未満の短期留学での必要性はないかもしれませんが、ちょっとそこまで買い物に出かけるという時にも車がないと不便だったりします。費用の問題などあるとは思いますが、私の場合買った値段とほぼ同じ値段で車を売ってから帰国したので、購入費は実質ほとんどかかりませんでした。

アーミデールの生活は想像を超えるアウェイ環境を提供してくれました。その環境が私を一回り成長させてくれたと思います。